

「第21回TQM活動発表セミナー」が開催されました

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



2026年7月25日(土)、「第21回TQM活動発表セミナー」を実施しました。今年も健育会本部と各地の病院・施設によるWEB会議形式での開催です。

健育会グループで毎年開催している「TQM活動発表セミナー」が実施されました。日々の業務を継続的に改善していくために行われているTQM（トータルクオリティマネジメント）活動は、今年で第21回目を迎えました。昨年同様、各病院・施設から発表チームや現場職員と、健育会本部から座長や幹部職員がWEB会議形式で参加しました。



発表セミナーの冒頭、私から開会の挨拶を述べました。



今年のTQM活動発表セミナーは、これまで各病院・施設で取り組んできたTQM活動が実際に現場で定着しているかどうか、一度立ち止まって振り返り、その中からもう一度挑戦したいテーマに再チャレンジしてもらう発表となりました。

今回発表する病院・施設の多くが、その目標をしっかりと達成していることが抄録から読み取れます。日々の忙しい業務の傍らで活動に臨む皆さんの努力と成果を、心から称えたいと思います。

TQM活動は、一度きりの成果で終わらせるのではなく、病院・施設の日々の業務の中で継続していくことが重要となります。一人ひとりにとって活動が当たり前の習慣となり、それを文化として根付かせることがTQM活動の真価であると考えています。

活動の一つ一つは目立ちづらい小さな取り組みかもしれませんが、その小さな改善は確実に積み重なります。全ての活動が病院や施設に根付いたとき、その取り組みは健育会グループが掲げる「光り輝く民間病院グループ」になるための礎になると、私は信じています。

私たちの仕事は一人の力で成し遂げることは難しく、常にチームの力が求められます。職種や立場を越え、Our Teamとして力を合わせることで、いかに大切であるかを深く理解してきたからこそ、TQM活動発表セミナーは今日まで続いてきました。

お互いの取り組みから多くを学び、この発表会で得たものを明日からそれぞれの職場に持ち帰って、更なる成長へとつなげていってください。

今回のTQM活動発表セミナーは、各病院・施設より20題（前半10題、後半10題）が発表されました。

前半の部においては、いわき湯本病院 荻津明リハビリテーション部長が座長を務め、10題の改善事例が発表されました。



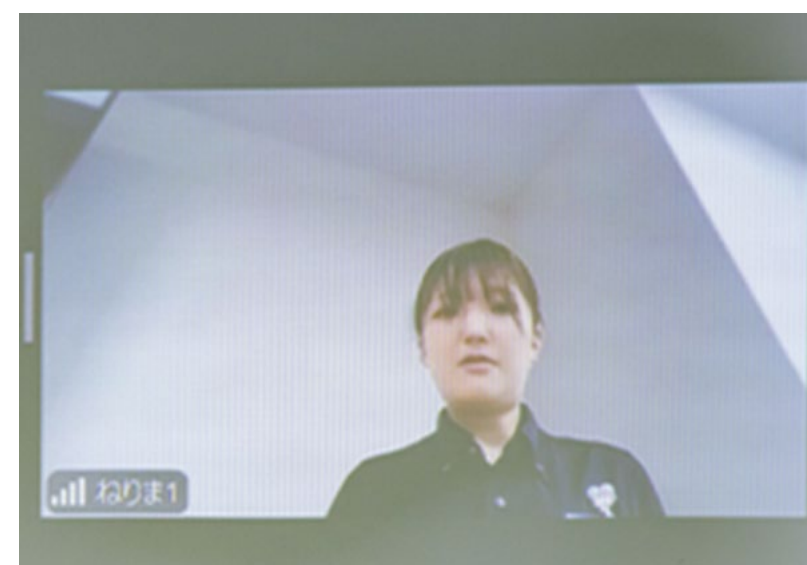
1

病棟での集団自主トレーニングの定着

ねりま健育会病院

平山 美里(作業療法士)

チーム名:Stand Up Please!!



2

有料老人ホームにおける レクリエーション実施回数向上の 取り組み

ライフケアガーデン熱川

江原 慎介(介護福祉士)

チーム名:Kagayaki Days



3

療養病棟における集団体操の持続可能な運営

熱川温泉病院

泉 大紀(理学療法士)

チーム名:集団体操続け隊



4

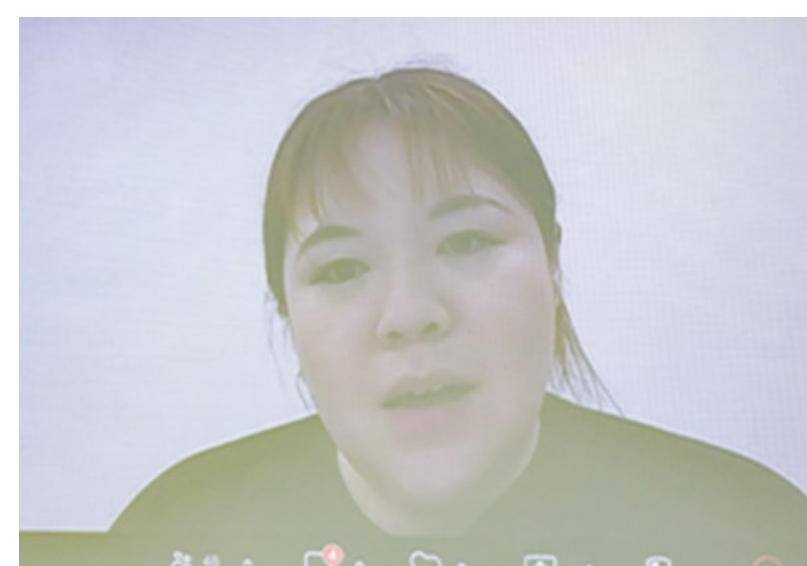
時間外労働削減に向けた対策

ひまわり在宅サポートグループ

ひまわり在宅ケアステーション

佐藤 佳奈(介護福祉士)

チーム名:かえるプロジェクト



5

会議を30分で終わらせる

ケアセンターけやき

井本 哲吉(居宅介護支援専門員)

チーム名:Team30



6

残業時間削減に向けたアップデートプロジェクト

ライフサポートねりま

小暮 優奈(相談員)

チーム名:オンとオフもっと大切にし隊



7

食事ケア情報共有体制の構築

しおん

平塚 希(管理栄養士)

チーム名:【続】ごえんむえん



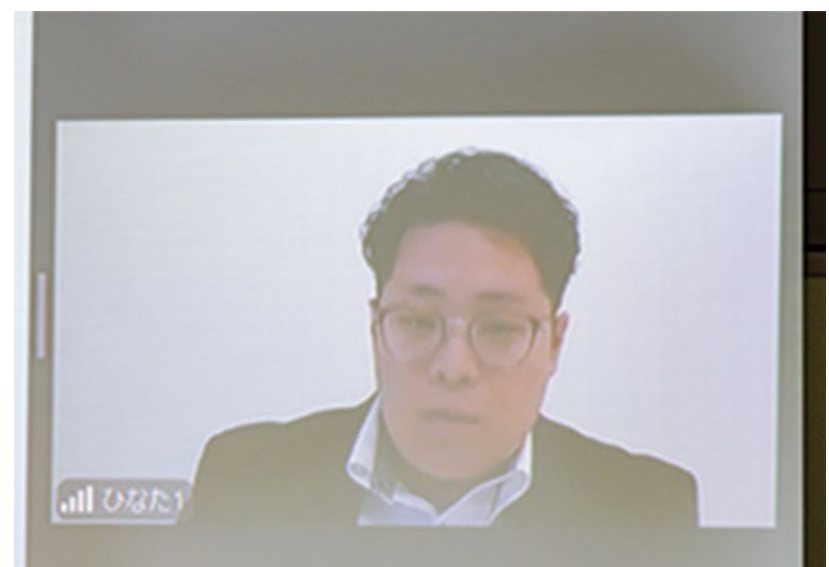
8

排泄予測支援機器と排泄用品選定の 見直しによる経費削減

ライフサポートひなた

淡路 大貴(介護福祉士)

チーム名:プロジェクトD



9

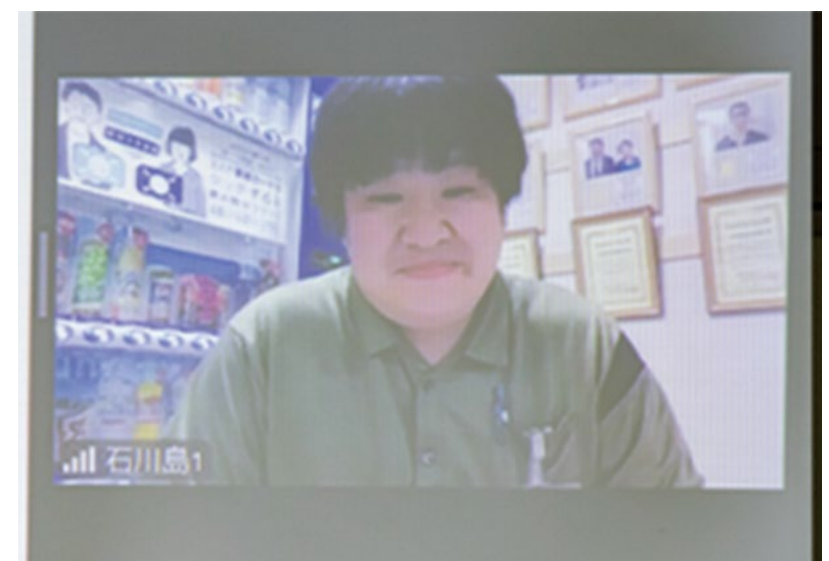
LINE WORKSを活用した院内外の 情報伝達DX化による部門間連携の強化

～3つの電子カルテを跨ぐシームレスな情報共有を目指して～

石川島記念病院

松尾 陽水(作業療法士)

チーム名:dx・DX



10

災害時の危機意識の向上

竹川病院

成田 佑理(理学療法士)

チーム名:2026防災TQMチーム



前半の発表後、荻津明リハビリテーション部長より、各演題に対する講評が行われました。



AIの活用が進み魅力的なスライドが増えている一方、TQM活動の要が見えづらいスライドも見受けられました。今後AIを活用する上ではTQMの本質をしっかりと表現することを意識してください。

要因解析については、4項目程度挙げて掘り下げる中で、重要要因が最初の項目で出てしまうケースが多く見られました。要因解析図は正しく使用することで真の要因が浮かび上がるのでさらに深掘りしていきましょう。

また、結果のまとめや対策の時期、情報収集と実働が一致していない印象を受けるスライドがありました。時期のずれを丁寧にそろえると、より高度な発表になると思います。

1演題目-自主練習というリハビリにおいて重要なテーマを、個人から集団へ広げた効果的な取り組みでした。運動を集団で行うことで患者さんのやる気を引き出す体裁になっており、窓際に並んで練習する活動写真は印象的でした。実際に取り組んでいる様子をさらにスライドに盛り込むとより魅力が伝わったと思います。

2演題目-ご利用者が活動をしていない時間を減らす、といった課題選定は素晴らしく、中間点検でのAI活用など先進的な取り組みも魅力的でした。一方でAI分析結果では日頃の小さな取り組みと、外出など業務負担の多いものが同じ扱いでカウントされていました。今後は業務負担や管理体制への影響を反映できる集計方法を工夫してみてください。

3演題目-患者さんの離床時間拡大に向け、属人化を防ぎ、誰でも実施できる体制づくりを行っていたと思います。今回は集団体操の実施回数を目標に設定していましたが、今後は患者さんの満足度や質の向上にも着目し、より効果的な活動につなげてください。

4演題目-人員不足という苦しい状況の中、訪問エリアの見える化など効果的な取り組みを行っていました。時間外労働削減と業務負担軽減を結びつけ、両方を成し遂げた点も高く評価できます。今後は要因解析と検証で、なぜその問題が起きているかを明確にして分析を進めていってください。

5演題目-会議を報告の場ではなく意思決定の場と位置付けた有意義な取り組みだと思います。削減した時間がどのような成果をもたらすかまで追求するとより説得力のある発表になったと思います。時間内に終わらなかった会議のフォローアップ体制や、30分という制限時間に向かない会議の有無についても議論を進めてほしいです。

6演題目-一度定着しなかった取り組みをアップデートし、組織全体で再び見える化を行って再建した点は評価できると思います。今後は、時間外労働が個人的なものか組織的なものか、またその理由をさらに細かく分析していくと効果的な改善につながっていくと思います。

7演題目-組織全体で誤嚥の予防に努めた非常に意義のある取り組みだったと思います。石巻地域肺炎予防ネットワークに施設が第一号として参画した点は、非常に高く評価できます。一方で、実施した複数の対策の一つによって目標を達成できてしまう設計になっていたため、目標設定を再検討して欲しいと思います。

8演題目-排泄用品の削減とケアの質の向上を「D Free」というテクノロジーを活用して成し遂げた、非常に効果的な取り組みでした。一方で、ケアの質が向上した原因が不明瞭に感じました。失禁回数や排泄手段がどう変化し、結果としてケアの質の向上につながったかを深掘りすると、より密度の高い発表になったと思います。

9演題目-電子カルテとLINE WORKSの役割の違いを明確にした、意義のある取り組みだったと思います。電話連絡とテンプレート共有のメリット、それぞれの役割がどう融合しているかまで分析できると、より説得力が増す発表になると思います。

10演題目-災害発生直後、各スタッフが迅速かつ均一に行動に移せるよう、初動のあり方を整理した非常に効果的な活動だったと思います。避難訓練と勉強会の定義、要因解析から対策への活用部分をもう少し丁寧に繋げると、より説得力のある発表になると思います。

後半の部においては、花川病院の三浦友貴看護部長が座長を務め、10題の改善事例が発表されました。



11

**外来診療における外来伝票取扱誤りの改善
～外来待ち時間短縮を目指して～**

西伊豆健育会病院

福本 南美(医事課)

チーム名:チーム・意地課



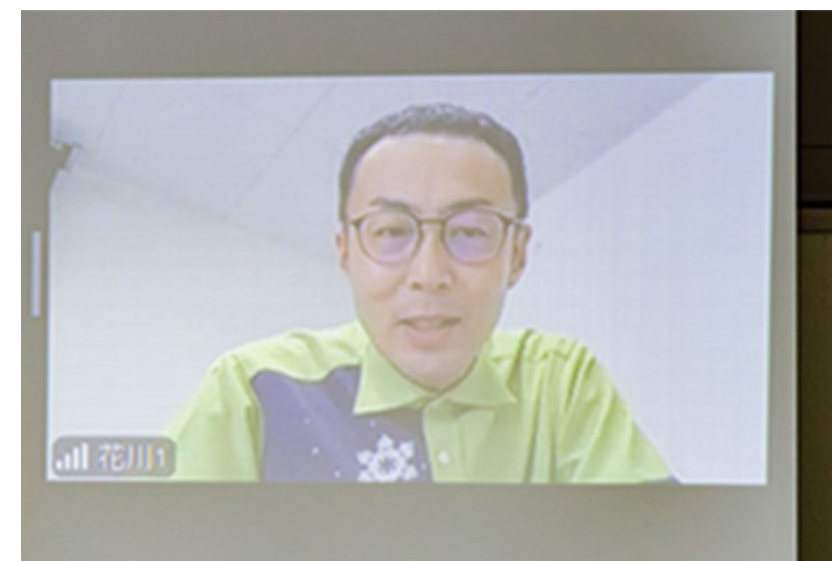
12

入院時対応時間の迅速化に向けて

花川病院

富居 潤一(社会福祉士)

チーム名:Time is Money



13

**ケアマネジャーのシャドーワーク削減に向けた
適切な提案体制の構築**

ケアポート板橋 舟渡居宅介護支援事業所

隅田 仁美(介護支援専門員)

チーム名:ケアカ(リョク)



14

**院内におけるカテーテル関連感染症の
発生数の削減**

石巻健育会病院

後藤 尚美(看護師)

チーム名:菌滅の刃



15

脳血管疾患比率改善に向けたブランディング活動

湘南慶育病院

関口 貴之(事務)

チーム名:新しい風



16

しおさいにおけるインシデント情報の集約

しおさい

高田 翔(作業療法士)

チーム名:チーム・インシデント



17

日常生活における口腔ケアの進化と革新 全力投球! ～ご入居者の生活を支える口腔ケア革命～

ライフケアガーデン湘南

細田 ゆい(介護福祉士)

チーム名:ケアミッション・インポッシブル



18

老健オアシスにおける脱オムツの改善率向上

喬成会介護事業部 オアシス21

山本 美沙(介護福祉士)

チーム名:オアシス戦隊フィットマン



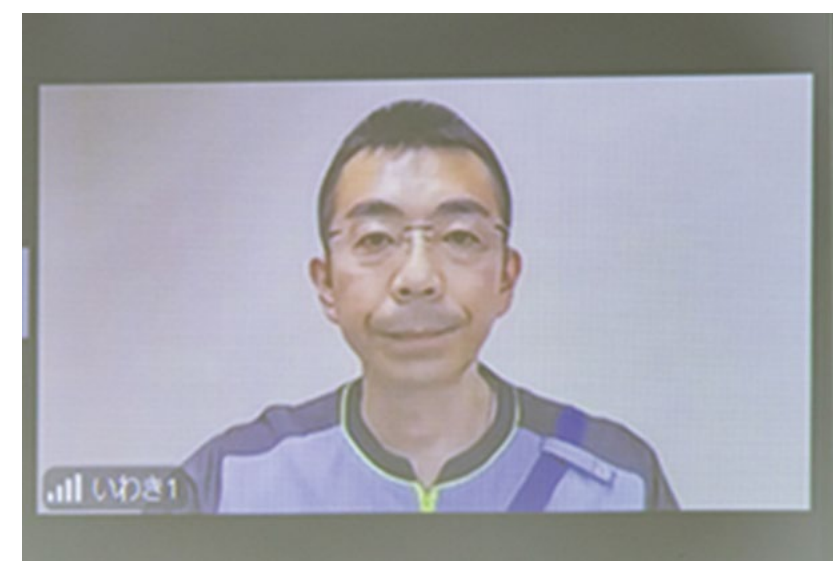
19

手指消毒剤使用量増加への取り組み

いわき湯本病院

沖澤 武志(理学療法士)

チーム名:Pure Hands Project(PHP)



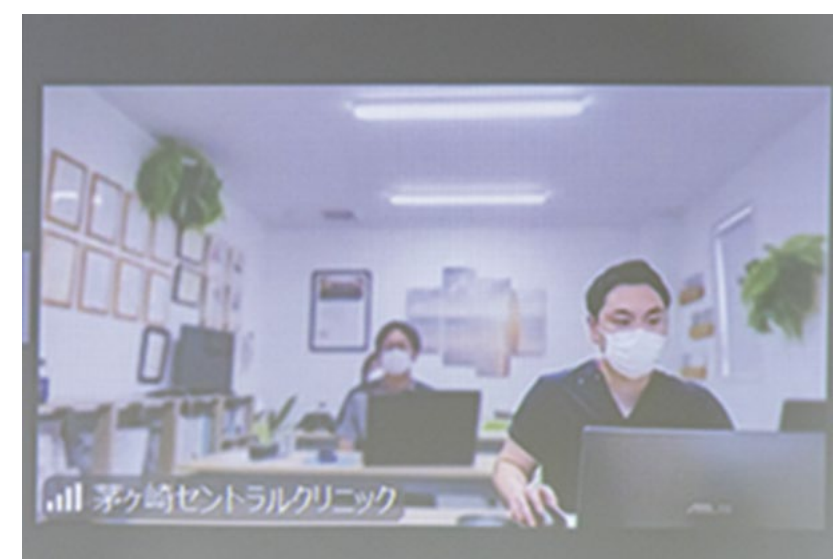
20

ゴミ分別における安全性の向上

茅ヶ崎セントラルクリニック

遠藤 洋斗(臨床工学技士)

チーム名:経費削減隊



後半の発表後、三浦友貴看護部長より、各演題に対する講評が行われました。



全体として、現場の課題を客観的に分析し、多職種で取り組んで改善につなげている素晴らしい発表でした。各病院・施設がDXを効果的に活用し、データに基づいた改善や、誰もが実践できる仕組みづくりに取り組んでいるように感じました。改善を個人の努力で終わらず、標準化して継続できる仕組みとして定着させようとする姿勢はTQM活動の本質であり、大きな成果であると感じます。今回得られた成果をさらに発展させ、健育会グループ全体で共有し、医療・介護の質の向上につなげていくことを期待しています。

11演題目-待ち時間短縮だけでなく、患者さんの安心や満足につながる意義のある取り組みだったと思います。色分けルールの簡素化によって、ルール重視から、患者さん中心へと意識が広がった点も素晴らしい成果でした。今後も改善を続け、より安心して効率的な外来診療につながることを期待しています。

12演題目-各病棟で異なっていた評価や説明方法を統一し、タイムスケジュールで業務の流れを見える化し、メディカルクリップを活用することは効果的だと感じました。待ち時間短縮にとどまらず、患者さん、ご家族の負担軽減や職員の業務効率化につながった点は素晴らしいと感じました。

13演題目-シャドーワークという見えにくい課題に着目した点に興味深さを感じました。スマートフォンの活用や支援リスト作成、対応方法の統一により、誰が担当しても適切な支援ができる体制を整えたことは、業務標準化とサービスの質向上につながる意義のある取り組みだったと思います。

14演題目-多職種が一体となって感染対策に取り組み、感染件数を目標以上に減少させたことは素晴らしい成果です。現状分析から要因解析、対策立案、実践、標準化までTQMのプロセスを丁寧に進めており、感染件数の減少だけでなく患者さんの安心、安全、医療の質向上、経営面にも貢献する価値のある活動だと感じました。

15演題目-脳血管疾患比率という病院経営にも関わる重要な課題に対し、データに基づいて現状を分析し、多職種で取り組まれていたことが印象的でした。地域の障害状況や医療機関への訪問活動、KPIの可視化など根拠に基づいた取り組みにより、脳血管疾患比率を大幅に上げ、病院全体の組織力向上につながる成果を上げた素晴らしい取り組みでした。

16演題目-インシデント情報の一元化に向け、入力率21%の課題に対し、現状分析、マニュアル整備、職員への周知や研修により100%達成したことは大きな成果でした。今後は蓄積したデータを改善活動に活用し、より安全で質の高いサービスにつなげていくことを期待しています。

17演題目-口腔ケア技術の向上にとどまらず、個別ケアの仕組みづくりや訪問歯科との連携など多職種で強化する体制づくりに取り組んだ点が印象的でした。現状分析から真の要因を明確にし多面的な改善を打ち出した点は、TQM活動の模範となる内容です。今後はQOL向上とともに誤嚥性肺炎予防につながる取り組みへ発展していくことを期待します。

18演題目-オムツを減らすことだけに着目せず、ご利用者の尊厳を守り自立した生活を支援する視点で進めていた点が印象的でした。排泄回数や睡眠状況の改善、経費削減という複数の効果を生み出し、ご利用者、職員、経営すべての価値創造へつなげたTQMらしい取り組みだったと思います。

19演題目-前年の目標未達を振り返り、原因を十分に分析した上で改善策を見直して目標を達成された点が印象的でした。シャドーイング調査で現場の実態を把握し、根拠を持って目標を設定されたこと、多面的な取り組みで職員の意識向上と行動変容につながった点は、TQM活動として意義のある成果だったと思います。

20演題目-現状分析から真の要因を明確にし、複雑だった分別方法を見直して誰もが実践しやすい仕組みに改善する点は、TQM活動の本質である「仕組みで改善する」取り組みだったと感じました。結果だけでなく実測値の違いについても検証し改善活動を進めた姿勢も印象的でした。

前半後半の全ての発表が終わった後に審査が行われ、審査員長を務めた長谷川友紀先生（東邦大学 医学部医学科 社会医学講座 医療政策・経営科学分野 教授）から、前半、後半それぞれ優秀賞と審査員特別賞が発表されました。



前半優秀賞

食事ケア情報共有体制の構築

しおん 平塚 希（管理栄養士）

チーム名：【続】ごえんむえん

前半優秀賞

排泄予測支援機器と排泄用品選定の見直しによる経費削減

ライフサポートひなた 淡路 大貴（介護福祉士）

チーム名：プロジェクトD

後半優秀賞

ケアマネジャーのシャドーワーク削減に向けた適切な提案体制の構築

ケアポート板橋 舟渡居宅介護支援事業所 隅田 仁美（介護支援専門員）

チーム名：ケア力（リョク）

後半優秀賞

院内におけるカテーテル関連感染症の発生数の削減

石巻健育会病院 後藤 尚美（看護師）

チーム名：菌滅の刃

審査員特別賞

老健オアシスにおける脱オムツの改善率向上

喬成会介護事業部 オアシス21 山本 美沙（介護福祉士）

チーム名：オアシス戦隊フィットマン

審査結果発表の後、審査委員長を務めた長谷川先生から、全体の講評をいただきました。



今回のTQM活動発表セミナーは、過去に取り組んできたテーマを振り返り、再チャレンジするというテーマのもと、皆さんが積極的に活動に取り組んでいるように感じました。働き方改革や最新機器への着手、ケアの質向上など、テーマの端々から社会情勢への対策が反映されているのが伝わってきます。

TQM活動とは、職種横断的にチームを作り、課題を見つけて改善策を作り、検証結果を確認して、歯止めと定着を図る一連の流れを指し、これは「PDCA」と呼ばれます。TQM活動で最も難易度が高いのは「健全な問題意識」です。日々の業務の中で「改善の余地があるのではないか」と疑問を抱き、課題を見つけるP（計画）が最も重要です。

次に難解なのがA（改善）です。課題解決後の「歯止めと定着」は、皆さんが考える以上に難しい業務です。医療従事者は極めて問題意識が高く、課題解決に懸命に取り組むため、短期間であれば目標を達成します。しかし目標達成後、歯止めと定着が行われないと、時間の経過とともに意識が薄れてしまいます。時間の経過は意識を緩ませるだけでなく、患者さんの要求水準も変化させ、最新機器の導入によって過去に取り組めたことが困難になる状況も生み出します。

そのため定期的な振り返りを見直しが重要です。時代や状況に応じて柔軟に対応し、問題意識を常に持ち続けなければ、組織の活性を維持することは極めて困難です。このような観点からも、再チャレンジが今回の大きなテーマだったのではないかと思います。

多くの発表を拝見し、TQM活動の本質を改めて振り返りたいと思います。

まずチーム編成では、できるだけ多くの職種を巻き込むことを大前提として考えてください。感染対策であれば医師、看護師はもちろん、薬剤師も参加させるなど、多角的な視点で取り組むべきという意見が審査員からも指摘されました。

テーマ選定では、TQMとして取り上げるべきか検討が必要な事例が散見されました。「しおさいにおけるインシデント情報の集約」の、入力率の低さはシステム自体の問題と窺え、TQM活動とは別の扱いとすべきと感じました。

目標設定は、業務フローを確立し流れが見えるようにすることを意識してください。「理解が深まった」「意識が向上した」といった目に見えない目標では対策を練れません。目標は業務フローにつながるという基本を再認識してほしいと思います。

業務フローの可視化では、ひまわり在宅サポートグループの「時間外労働削減に向けた対策」が非常に効果的でした。人員不足で時間外労働が増加した中、人員を増やすのではなく業務の仕組み自体を変え、朝夕の訪問時間を避けて業務の集中を防ぐことで、減少した人員でも訪問件数をこなす成果を出していました。ご利用者にどのような気持ちの変化が起きたかまで深掘りすると、より精度の高い発表になったのではないかと感じます。

TQM活動で欠かせない要素に「標準化」があります。情報共有は、共有項目が明確で記載方法も標準化されていることが求められます。「食事は柔らかく」と共有されたとしても、どの程度の柔らかさかが標準化されていないと、個人の解釈でばらつきが生じ、組織として機能しません。しおんの「食事ケア情報共有体制の構築」は、情報共有の基本を振り返ることのできる非常に印象的な発表でした。

今回の発表で心に残るテーマの中に、排泄介助への取り組みがあります。ライフサポートひなたの「排泄予測支援機器と排泄用品選定の見直しによる経費削減」と、喬成会介護事業部の「老健オアシスにおける脱オムツの改善率向上」の2チームは、審査員の中でも非常に高い評価を受けました。ライフサポートひなたは、ハイテクノロジーな「D Free」を活用し、時代の進化に伴い組織が柔軟に対応する仕組みの変え方を示した良い試みでした。

一方、喬成会介護事業部は、モニタリング表やベッドサイド表を活用したオーソドックスな取り組みながら、他部署との連携を強化した波及効果の考え方など、TQM活動の手本となる素晴らしい内容で、審査員特別賞に選出しました。

後半ではケアポート板橋の「ケアマネジャーのシャドーワーク削減に向けた適切な提案体制の構築」が大きな評価を受けました。シャドーワークという問題を自ら定義し、問題点を突き詰めた姿勢が素晴らしかったです。地域資源不足による負担を軽減するため、相談・資源リストを作成し、対応フローを統一して定型業務に落とし込み、業務を減らすのではなく拡張しながら効率化し、横展開まで広げられる資源を作りだした、チャレンジ要素の高い活動でした。

また、石巻健育会病院の「院内におけるカテーテル関連感染症の発生数の削減」は非常にオーソドックスで、TQM活動の本質を見事に表す取り組みです。TQM活動に新たに参加された方々は、今後活動を行う上でぜひ参考にしてみてください。

今回の発表は全体を通し、課題の複雑化もあってか、チームによって活動内容に差があるように感じられました。

しかし差があることは一概に悪いことではありません。発表を通じ、それぞれの違いや情報を共有して、Our Teamでお互いに研鑽し合ってほしいと思います。

TQM活動発表セミナーは、拝見する私自身も、健育会グループも、皆さん一人ひとりにとってもキャリアアップに繋がる素晴らしい会です。また来年、更なる成長を遂げた皆さんの発表を拝見できることを心から楽しみにしています。

活動を継続させていくこと、その毎日の小さな積み重ねが健育会グループ全体を大きく成長させる力となります。各病院・施設や多職種間で常に互いを高め合い、Our Teamの精神のもと更なる躍進をしていくことを期待しています。